

博物館の別館（宝山ホール4階）に出かけてみませんか。 ～「博物館別館プラネタリウム」,「化石展示室」の紹介～

文化財課

博物館別館プラネタリウムの紹介

星空へいざなう「プラネタリウム」



プラネタリウムドーム内の様子

博物館別館（宝山ホール4階）にあるプラネタリウムには2つの特徴があります。

1つ目は、全方位が見渡せる水平型の投影機であることです。実際の星空に近い感覚で鑑賞できるため、全員での野外観察の難しい天文分野の授業等での活用には大変効果があります。

2つ目は、オリジナルの投影番組を作成し、投影していることです。春夏秋冬の星座に合わせた星空解説と季節ごとの星物語を投影しています。また、天文現象や郷土に根ざした番組内容などを取り上げたり、幼児のための投影等も要望にあわせて行ったりしています。

プラネタリウム秋編番組の紹介

9月12日（土）から「夢とロマンの星空散歩 秋編」がスタートします。

秋の代表的な星座の紹介や月の呼び名についての星空



解説と星物語を投影します。星物語ではみずがめ座の星座絵になっているガニュメデス少年の話わかりやすく紹介しています。

秋空は雲も少なく、澄み渡った空で星空を楽しめます。実際の星空と同じ方位や高さで疑似体験できる県立博物館プラネタリウムを観覧していただき、秋の星空について学んでいただければと思います。是非、博物館別館プラネタリウムにお越しください。

貴重な化石が多数！「化石展示室」

博物館別館（宝山ホール4階）には、大変貴重な化石を展示している「化石展示室」があります。エレベーターを出て右側を見ると、2体の大きな恐竜化石が迫力ある姿で出迎えてくれます。肉食恐竜のアロサウルスと植物食恐竜のカンプトサウルスです。この恐竜化石はレプリカではなく、全体の6～7割が実物の化石です。実物の恐竜化石をこのように展示しているのは、全国でもあまり例がありません。



カンプトサウルス（左）とアロサウルス（右）

恐竜だけではなく、北アメリカで産出した三葉虫、アンモナイトなど400点以上の化石も展示しています。これらの貴重な化石は、1965（昭和40）年、当時ロサンゼルス在住の小川勇吉氏から本県に寄贈されました。この寄贈に尽力されたのが、本県出身の八島太郎画伯です。絵本「からすたろう」でもよく知られています。恐竜化石展示室の背景画は、この八島太郎画伯によって描かれたものです。

また、南米ボリビアの古生代の地層から産出した化石も200点以上展示しています。これらは、1991（平成3）年に、小牧勇藏氏の御尽力により、大野透太郎氏が収集されたものを、寄贈していただきました。



三葉虫（南米産）

化石は過去の地球を教えてください。古生代から新生代までの約5億年という長い時間に、確実に生きていた生物たち。現代に蘇ったその雄姿を是非ご覧ください。